

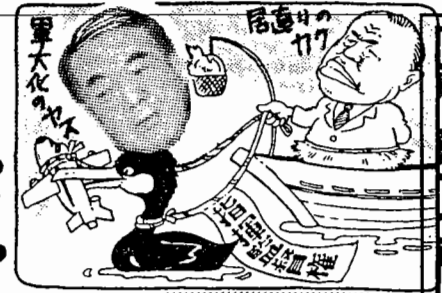
日刊 勤労千葉

83. 10. 14

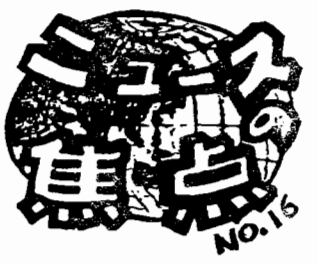
No. 1467

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七



秋季反戦-三里塚闘争の爆発で 角栄辞職・中曽根打倒を



元首相・田中角栄ら5被告のロッキード事件「丸紅ルート」判決公判は、10月12日、東京地裁刑事才一部で開かれ、受託収賄罪と外為法違反により田中角栄に懲役四年の更刑判決が下りました。首相の地位を利用し、航空行政から自衛隊の軍備増強まで動かすとともに、外国企業から5億円の賄賂(わいろ)を受けとった田中角栄は断罪されて当然であり、直ちに議員を辞職すべきであります。

軍事大国化路線の必然 自民党の金権 腐敗と汚職

一九七六年二月四日、米上院多国籍企業小委員会公聴会において、ロッキード社がトライスター機の販売で見玉誉志夫、丸紅などに30億円余の工作資金を流したと暴露したことから、一国の首相による日本政治史上まれにみる一大疑獄事件が明らかになりました。すなわち、田中角栄は、一機数十億円もする航空機の売りこみ競争につけこみ、ロッキード社のトライスター機を全日空に売りこむ工作をし、その見返りとして5億円の大金を手に入れたのです。この黒い金に群らったのは、すでに有罪判決を受けた橋本登美三郎元運輸相、佐藤孝行元運輸政務次官をはじめとする十数人の「灰色高官」であり、この金が74年の参院選の資金に使われたことが明らかになっていきます。従って、田中失脚以後の現在において119人という自民党最大派閥を維持し、福田から中曽根内閣までの四つの内閣を牛耳ってきたことをみたと、自民党政治の金権腐敗体質をはっきりとみる事ができます。

労働者の犠牲のうへに私腹をこやし、軍拡を進める田中・中曽根

とりわけ「事件」に関係したことがコトコトヤン証言でも明らかになり、国会の証人喚問台にたった中曽根首相が最大の疑惑の人物であることは、議員辞職勧告決議案に反対し灰色高官の証人喚問を拒否するなど、田中かくし、疑獄かくしの姿勢の中にはっきりと表われています。権力を力々に財界と結びつき、私腹をこやし、軍事大国化・改憲の攻撃を強行する一方で、労働者には「行革断行の名のもとに一切の犠牲をおしつけてきているのか他ならぬ中曽根内閣なのです。

そして、政府・自民党は、支配階級自らがつくった仲裁・人勸制度をも反古にする賃金凍結を強制し、われわれ労働者をますますい生活苦の中に叩きこんでいます。こういう支配者どもが、一方で、「300円をポケットに入れた」かどうかでわか国鉄労働者を一も二もなく即刻首を切り、退職金すらも全額没収して一家もろとも街頭に放りだし(上野)、作業ではこりと油にまみれた国鉄労働者が作業後、退区前に風呂で汚れを落したといつてその時分を賃金カットにする、というようなことをやっているのです。5億円という、月収20万円の労働者が200円に抑えられても得ることのできない大金を収賄した田中角栄が、労働者・人民の怒りと議員辞職の要求に平然とひらき直り、「内閣総理大臣の職にあたる者として、その名誉と権威を守り抜くために、不退転の決意で戦いぬく」「私は国会議員として国政を進展させるべく、国民から全面的な負託を受けた身である。その職務達成にまい進することこそ、私に与えられた責任であり、義務である」(有罪判決直後に表明された「田中所感」)などとはざいて居座っている事を絶対に許すことはできません。

秋季反戦-三里塚闘争で中曽根打倒を

労働者・人民を反動と暗黒の道にひきずりこむ自民党、角影内閣、中曽根を、腐敗し切った田中角栄もろとも秋季反戦-三里塚闘争の爆発でなんとかして打倒しようではありませんか。とりわけ航空行政・空港建設航空機購入・自衛隊武器購入・生産等が巨大な軍事才職の温床である事、中曽根の「三里塚二期強行」軍事大国化路線「こそ角栄方式の踏襲である事を暴露断罪し、粉碎していかなければなりません。勤労千葉は、県労連主催の「10.12千葉県集会」に、以上の立場で参加し、10.21.24反戦集会へと決起する決意をこら固めました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！